

ものがあります。今枝さんの言葉に「校長たるもの」と言われているようにも感じました。蘇生したくすくんのように葉が多く茂った状態に戻るときが楽しみです。くすくん活性化作業の様子を紹介します。全て根を確認し大切にするため、手作業です。

○9月9日（水） くすくんの幹近くの根の活性化

くすくんの幹近くの土壌を深さ15cmほど根を切らないように掘って、木炭ユーキ（土壌改良資材）を2～3割程度混ぜて埋め戻す作業を行いました。専用工具での丁寧な作業に驚きました。



○9月11日（金） くすくんの東側の根の確認と土壌改良

くすくんの東側の根の状態を確認しながら、90cmほどの穴を掘り、木炭ユーキ（土壌改良資材）を2～3割程度混ぜて埋め戻す作業を行いました。あまり太い根は見当たりませんでした。この日は、作業の様子を見学する学級もありました。土壌改良資材や根や葉の様子など、多方面から質問をしっかりとできる子供が多く、感心しました。



○9月18日（金） くすくんの幹近くと東側の地中に酸素を行き渡らせる作業

くすくんの幹近くには、長さ40cmほどの孟宗竹を48本打ち込みました。竹を通して酸素が行き渡るとのことです。同じように、くすくんの東側には、1.5mのパイプを1mほど打ち込んで空洞を作り、その中に土壌改良資材ビーナスライトを入れていきました。パイプを1m打ち込むことは大変な作業です。脚立の上から打ち込まなければなりません。また、力任せに打ち込んでいるのではなく、太い根を切ってしまうないように、地中の様子を感じながらハンマーを打っているそうです。部活動開始前のわずかな時間にも子供たちが作業の様子を見学していました。



○9月28日（月） くすくん東側の土壌改良

根を切らないように深さ90cmほどの穴を、くすくんの東側に大きく掘り、木炭ユーキ（土壌改良資材）を2～3割程度混ぜて埋め戻す作業を行いました。他の樹木の根と見分けながら、くすくんの根がしっかり活性化するように土壌改良がおこなわれました。地道な作業です。



根っこが大切だと、毎回感じさせられます。

子供も、人としての根っこが育つ「今」が大切なのです。